

令和7年度 第2回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和7年10月22日（水）18時00分 ～ 19時15分

【場所】 市役所5階 第2応接室

【出席】 ▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 10名（12名中）

本間会長、中村副会長、荒井委員、石田委員、伊藤委員、中村峰子委員、
西田委員、藤岡委員、米山委員、林崎委員 ※欠席 金山委員、鈴木委員

▼事務局（市）

山田総合政策部長、神保まちづくり推進室長

スポーツ都市推進課：森田主幹、伊藤課長、東梅課長補佐、田中主査、山岸主査
丸谷主事、大上主事

～～～以下議事要旨～～～

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 第2期苫小牧市スポーツ推進計画の素案について

- ・事務局（山岸主査）から第2期計画の概要について説明があった後、本間会長から各委員に意見を求めたところ、以下の発言があった。

▽荒井委員

- ・スポーツ習慣化促進事業を見ていると、運動習慣のない女性や子育て世代に対し、プロ選手との交流やファン活動が運動開始の良いきっかけになると考えている。
- ・子育て中の方は、子どもの面倒をみなければならないので、運動する機会が遠のいてしまう。そのため、子どもと同時に参加できる運動プログラムや取り組みが必要だと思う。

▽石田委員

- ・小学生サッカーの全道大会を苫小牧で開催した際にアンケートを取ったところ、交通アクセスの良さや人工芝2面のピッチがあるなど良い評価があった一方で、会場のトイレ不足や混雑が指摘された。
- ・スポーツツーリズムという考え方が出てきたのは良いことだと思うが、今後宿泊施設が足りなくなると言われている中で、スポーツ合宿を誘致するのは大丈夫なのか。せっかく誘致しても市内に泊まれないとなるともったいない。

- ・部活動の地域移行について、クラブ化が進んでいるところもあるが、なかなか人材がいらないため、合同・拠点校チームでやっているところもある。
- ・現在、小学校の体育館やグラウンドを学校開放ということで貸出をしているが、今後、中学校の体育館も貸出するような動きもある。一方で、拠点として使われない学校のグラウンドは、草がたくさん生えてきてしまっている。

▽伊藤委員

- ・身体障がい者福祉連合会が開催したスポーツイベントに市長が来た際に手話で挨拶するなど、手話でのコミュニケーションが広がってきているという実感はある。ただ、そういったイベントに集まる人は高齢者が多く、若い人の参加が少ないと感じている。
- ・先日の津波警報が出た際に市内のスポーツ施設にいたが、耳が聞こえない方も安全に避難できるよう、障がい者に配慮した避難経路を施設に掲示することも必要だと感じた。

▽中村峰子委員

- ・地域で開催するスポーツ大会に以前は付近の学校の子も達が参加してくれたが、最近は少なくなっている。人を集めるのに広報の仕方を工夫する必要も感じているが、スマホばかりを見ていて大人がかかるような病気に最近は子どもがかかるという話もあるので、激しい運動までは求めないが、地域のイベントなど外に出る癖がないのは問題なのかなと感じている。

▽中村副会長

- ・パラスポーツ教室の参加者は固定化しており、なかなか増えてこない。SNS の活用など広報の仕方を工夫することも大事だが、多くの人が集まる他のイベントに合わせて、パラスポーツに関する教室や体験会を開催することはできないかと感じている。

▽西田委員

- ・一つのスポーツを極めることも、もちろん素晴らしいことだが、他のスポーツ活動を通して、人間性を豊かに育んでいくといったところもあると思っている。例えば、自分のところでは野球を教えているが、パラスポーツの案内が来ても特に反応がなくスルーされてしまっているので、もう少し外に目を向けることもできれば、もっとスポーツというものを広い意味で楽しめる人に育っていくのではないかと感じている。
- ・野球だとシーズン中は大会が多いので、他のことをやる時間が取れないという事情もあるかもしれないが、野球部会で調整し、この日はこういうスポーツイベントがあるからみんなで参加しようということがあってもいいのではないかな。

▽藤岡委員

- ・他のスポーツも同様だとは思いますが、少子高齢化の影響でアイスホッケーの競技人口は減少傾向ではある。ただ、スマイルジャパンの活躍もあり女子選手は増加している。
- ・先ほど、いろんなスポーツをやる必要があるという意見があった。自分は日本アイスホッケー連盟の役員をしているが、その委員会の中でも、小さい頃はいろんなスポーツを取り組み、その後どれが自分に向いているのかということで中学高校でそちらの道に進むというのが一番ベストではないかという話をしていた。
- ・競技の普及という面では、イーグルスも頑張っており、若い女性を中心にファンが増えて観客動員数も伸びているし、小学生の大会のスポンサーになってくれる企業も増えてきているという実態もある。
- ・また、ホテルの問題が先ほどあったが、以前観光協会に所属していたこともあるので、自分も心配している。ハイシーズンの夏場は泊まる場所がないぐらい高い稼働率になるが、秋口から冬になると稼働率は落ちるという状況である。

▽米山委員

- ・選手が長く競技を続けるという観点で、女子アイスホッケーの場合、就職先不足が競技継続の大きな障壁となっている。限られたトップの選手のみ支援を受けられているのが現状であり、それ以外の選手は生活のため諦めなければならないという環境になっていると感じている。
- ・先ほどから他のスポーツとの関わりという話が出ているが、他のスポーツに関わりたくてもどうやって関わるのだろうというところもあるのではないかと。女子アイスホッケーのチームで、オフの日にサッカーをやったりするが、何もわからず、ただみんなで蹴っているだけのようなことがあるので、他のスポーツクラブと関わり、一緒に何か体を動かすことで、お互い応援し合おうという気持ちにもなるのではないかと。

▽林崎委員

- ・宿泊施設の問題についてだが、市のスポーツとは別の部署の方で現在動いている最中である。
- ・グランパスの合宿決定の話があったが、市内の視察や沖縄キャンプなどにも動向したり、観光協会（MICE 誘致推進協議会）も協力して動いてきた。
- ・事務局に質問だが、第2期計画の施策の中に「④大会や合宿を誘致し、地域経済の活性化を図る」とあり、実施する主な事業の中に「MICE 誘致推進協議会との連携」と記載されている。MICE 誘致推進協議会ではスポーツ以外の分野も誘致しているため、数年後はスポーツ以外の誘致ばかりに動いている可能性もあるが、その場合、成果指標にどう影響するのか。

▼事務局（東梅課長補佐）

- ・林崎委員の質問について、MICE 誘致推進協議会の本来の目的であるコンベンションや会議など、そういった部分の誘致活動が主となり、スポーツの分野の取り組みが弱くなっていくということは、この事業に限らず起こり得ることである。そうなった時にまた考えていきながら進めていくものだとして認識している。

▽林崎委員

- ・名古屋グランパス誘致に関連して聞きたいが、企業誘致などの際によく聞く話として、誘致するには一生懸命取り組むが、誘致できたら何もしないという話がある。グランパスは来年から来るということだが、その後どうしていくのか。

▼事務局（伊藤課長）

- ・当然、誘致後のフォローアップをしっかりやっていかなければならないと認識している。
今回の誘致決定の大きな要因は、地域と共にキャンプ環境を作り上げていくという意識をクラブ側が強く持っていることであり、沖縄キャンプも10年の年月をかけて現在の形に築き上げてきたと聞いている。苫小牧でも同様に長期的な視点で良い環境づくりを進める必要があるため、毎年継続的にフォローアップを行い、チームに寄り添いながら支援していくことが重要であると認識している。

4 その他

- ・その他資料「2-1」「2-2」について、事務局（伊藤課長）から説明。
- ・本間会長から各委員に意見を求めたが、特になかった。

5 閉会